

- 再生可能エネルギーの活用：創エネ
- 建物の省エネルギーの徹底：省エネ
- 森林整備・保全によるCO₂吸収：固定

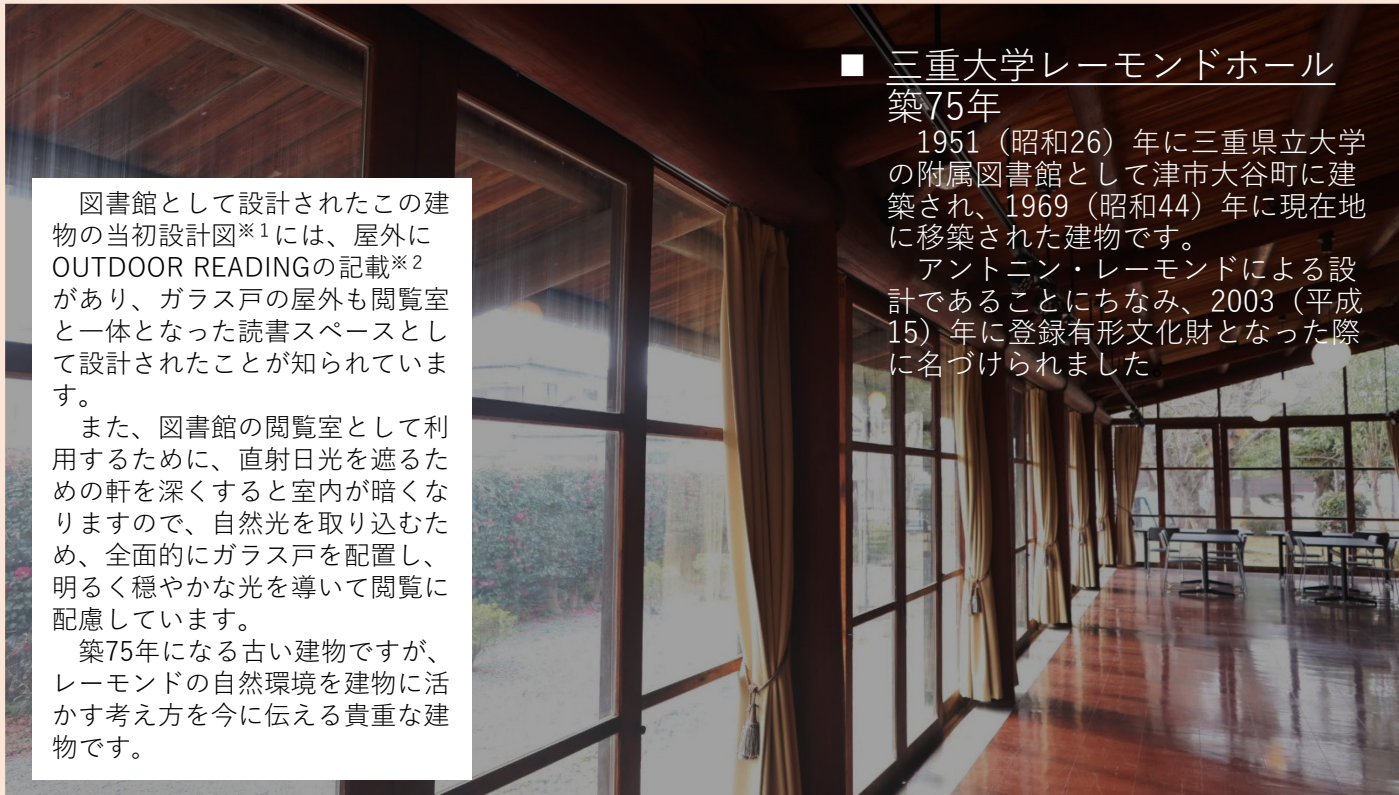
三重大学 キャンパスのカーボンニュートラル (レーモンドホール編)

知っていますか？

全面ガラス戸とする開放的南面は、登録有形文化財 三重大学レーモンドホールの特徴の一つです。



レーモンドホールと南面の緑花 (2026年5月8日撮影)



■ 三重大学レーモンドホール 築75年

1951 (昭和26) 年に三重県立大学の附属図書館として津市大谷町に建築され、1969 (昭和44) 年に現在地に移築された建物です。

アントニン・レーモンドによる設計であることちなみ、2003 (平成15) 年に登録有形文化財となった際に名づけられました

図書館として設計されたこの建物の当初設計図^{※1}には、屋外にOUTDOOR READINGの記載^{※2}があり、ガラス戸の屋外も閲覧室と一体となった読書スペースとして設計されたことが知られています。

また、図書館の閲覧室として利用するために、直射日光を遮るための軒を深くすると室内が暗くなりますので、自然光を取り込むため、全面的にガラス戸を配置し、明るく穏やかな光を導いて閲覧に配慮しています。

築75年になる古い建物ですが、レーモンドの自然環境を建物に活かす考え方を今に伝える貴重な建物です。



レーモンドホール



三重大学マスコットキャラクター ミールド

2050カーボンニュートラルに向けた取組計画

国立大学法人 三重大学
地球環境センター
施設部 2024年11月



室内から見たレーモンドホール (2026年2月5日撮影)

※1 当初設計図 (複製品) を展示しています

※2 詳細はこちらからご覧ください
[三重大学附属図書館 | 三重大学レーモンドホールとアントニン・レーモンド](#)